

平成 16 年 4 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社ケンウッド
代 表 者 名 取締役社長 河原 春郎
(コード番号 6765 東証・大証 第一部)
問 合 せ 先 業務統括部 株式法務室長
和久 雅宣
(TEL 0426 - 46 - 6724)

平成 16 年 3 月期業績予想の修正のお知らせ

平成 16 年 3 月期 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日) の業績予想につきまして、2 年連続で連結純利益の史上最高を大幅に更新する見込みとなりましたが、平成 15 年 11 月 14 日に発表しました中間決算時の業績予想の連結及び単体経常利益、当期純利益を次の通り修正いたします。

(1)平成16年3月期業績予想(連結)数値の修正(平成15年4月1日~平成16年3月31日) 単位:百万円

	売上高	営業利益*	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 15 年 11 月 14 日発表)	185,000	15,500	12,000	11,000
今回修正予想 (B)	180,000	12,000	8,000	7,000
増 減 額 (B-A)	5,000	3,500	4,000	4,000
増 減 率 (%)	2.7%	22.6%	33.3%	36.4%
前期(平成 15 年 3 月期)実績	225,579	12,260	7,059	4,221

(2)平成16年3月期業績予想(単体)数値の修正(平成15年4月1日~平成16年3月31日) 単位:百万円

	売上高	営業利益*	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 15 年 11 月 14 日発表)	136,000	10,000	9,500	8,500
今回修正予想 (B)	125,000	5,500	4,500	5,000
増 減 額 (B-A)	11,000	4,500	5,000	3,500
増 減 率 (%)	8.1%	45.0%	52.6%	41.2%
前期(平成 15 年 3 月期)実績	157,799	5,256	4,678	4,236

上記修正予想は速報ベースの数値で、実際の業績とは異なる可能性があります。

*営業利益は参考値です。

< 修正の理由 >

[売上高]

イラク戦争や新型肺炎SARSの影響が収束するにつれて国内外の経済に明るい状況が見られた中、当社の平成16年3月期の売上高は約1,800億円と予想を約50億円下回る見込みですが、3月末の大幅な円高の進行によって決算上は3月末為替レートで海外売上の評価減をすることとなるため、実質的には予想を達成したものと考えます。

[収益]

前年度に完了した再建の構造改革が通期にわたって効果を生み、さらに新たに取り組みを開始した生産革新の成果によって、前期に引き続き2年連続で連結純利益の過去最高を大幅に更新する見込みです。

(営業利益)

営業利益は参考値ではありますが、前年とほぼ同水準の約120億円、予想に対し80%程度で約35億円の未達となる見込みです。

* ホームエレクトロニクス事業は、事業構造改革や国内工場における生産革新の効果が顕著に表れ、収益性が大幅に改善して下期は黒字化を果たして復活し、ほぼ予想の結果となる見込みです。

* コミュニケーションズ事業は、イラク戦争の影響による業務用無線機の受注減少など、厳しい環境にもかかわらず堅調に推移し、引き続き安定した収益を計上しましたが、米国市場に対する円高の影響を多少受けました。

* カーエレクトロニクス事業は、OEMビジネスが順調に拡大しており、収益も予想を上回る見込みです。一方の市販ビジネスは、国内外ともにオーディオ市場が大幅に縮小(前期比16.4%)する中、ビジュアル分野が急速に伸長(前期比+7.0%)しています。当社は、こうした市場環境の変化に対応したビジュアル商品を強化すべく、昨年10月から国内ではカーナビゲーションとDVDシアターを融合した戦略商品「シアターナビ」を、海外ではDVDシアターを中心とする新商品群を市場に投入する予定でした。

しかしながら、外部に委託したLSIエンジンの開発が大幅に遅れたことから、ビジュアル新製品の発売が国内外とも大幅に遅れる事態となりました。当社では、第4四半期に主力であるカーエレクトロニクス事業の新商品が世界各地で導入されることから、売上高・収益の目標を他の四半期に比べて高く設定していますが、これら新モデルの発売が遅れたことが業績に大きく影響しました。

加えて、一年前に期待をもって発売した海外向け新機軸オーディオに、4月の発売早々から店頭展示で予期せぬ出来事が起き、スムーズな導入に支障をきたしたことや、欧米向けの普及帯でシェアを落としたことなどが尾を引き、第3四半期のクローキングで大変苦戦し、第4四半期前半までもつれこんだことも大きく影響し、為替の影響も入れると20~30億円の利益減となったと考えられます。

こうした問題もすでに対策を講じ、新たな魅力的オーディオ新商品群を2月から出荷、さらに上記の遅れていたビジュアルの新商品群を国内では2月から、米国など海外では3月から次々と発売しましたが、大変な好評を博しており、売上・受注ともに急速な回復を見せております。これら新商品群によって、昨年度の出遅れをすっかり挽回し、復活への大きな期待を寄せております。

(経常利益、当期純利益)

円高による為替差損や今後に向けた健全化の観点から、当初予定していなかった子会社合併による過去モデルのサービス部品の評価損や、シンガポールの不動産など海外資産の評価損を計上することから、営業外損失と特別損失あわせて約15億円、予想より増加する見込みです。

(単体損益)

単体では円高の進行等による価格面での市場対応を行なったことなどから、連結での予想との差より若干下回る見込みです。

(財務面)

財務面におきましては、生産革新を推進した結果、棚卸資産の削減によるキャッシュ・フローの増加など、バランスシートの健全化も順調に進み、実質有利子負債(ネットデット)は前期末比で約200億円減少し、目標としていたネットデット約300億円を達成する見込みです。

<今後の対応策について>

当平成 17 年 3 月期は、3 年連続の連結純利益の最高益更新を目標にしつつ、中期経営計画「エクセレント ケンウッド・プラン」の中間年度にあたり、その目標達成に向けたエネルギーを蓄える投資の年と位置づけて、積極的に戦略投資を行い、事業競争力の強化と成長戦略の強力な推進をはかります。

前期遅れをとったカーエレクトロニクス事業については、ビジュアル分野ですでに今年度新商品が大変好調にスタートしましたが、さらに市販市場のナビゲーションを含むカーマルチメディアで商品力の飛躍を図るべく昨年来全社の人材を結集し、独自技術開発に加え、他社から実績のあるソフトウェアとそのライセンスを取得してこれを補強し、年内の発売を目指して商品化を急いでおります。

このほか、前年より好調の OEM ビジネスは事業部として独立し、積極的な成長戦略を進めております。

コミュニケーションズ事業では F-1 (フォーミュラ・ワン世界選手権) のマクラーレンチームのオフィシャルサプライヤーとして、世界で最先進性と信頼性が認められた無線機の技術をベースに、デジタル化とシステム化の取り組みを強化し、東洋通信機株式会社からの無線事業の譲受による国内市場の強化によって更なる成長を目指します。

ホームエレクトロニクス事業は筋肉質な事業構造となっており、ホームマルチメディアの拡充とネットワークオーディオの開発に注力することによって売上も伸ばし、通期黒字化を目指します。

これら事業力、商品力の強化に加え、グローバルブランドとしてのケンウッドブランドへの積極的な投資によってブランドプロモーション展開を精力的に行なっております。

このほか、従業員の活力増強に向けた給与カットの解除など、従業員への再投資も進める一方、戦略的な投資を支える財務基盤を整備するため、更なるバランスシートの強化に向けた戦略的施策を検討中であり、「エクセレント ケンウッド・プラン」の達成に向け、あらゆるアクションを実行していく計画です。

以 上